

◎人口問題審議会幹事（官制順）

氏名	現職
森川幹夫	内閣総理大臣官房参事官
橋本徳男	経済企画庁長官官房企画課長
中根正己	外務省移住局総務課長
前川憲一	大蔵省大臣官房調査課長
西村勝己	文部省初等中等教育局初等教育課長
網野智	厚生省大臣官房企画室長
岩本道夫	農林省農政局農政課長
三宅幸夫	通商産業省大臣官房企画室長
細野正	労働省職業安定局失業対策部企画課長

第 37 回 日 本 社 会 学 会 大 会

第37回日本社会学会大会は、昭和39年9月26、27の両日、東京都立大学において開催された。一般研究報告は、基礎理論、家族、地域、都市、農村、漁村、産業・労働、集団・組織・リーダーシップ、階層・階級、社会心理・社会意識、社会病理・社会福祉の各部会に分かれて60題の報告があったほか、重点部会として「現代社会学におけるM・ウエーバーの意義」についての4報告があり、シンポジウムとして討議が行なわれた。なお、会長武田良三教授の「産業社会の体制と問題点」と題する講演があった。

報告のうち、人口あるいは人口問題に直接関係あるものとして、次の5報告があげられる。

- 人口の地域移動と出生力との関係……………人口問題研究所 上田正夫
- 移動人口の社会学的一考察……………北海道大学 鎌田哲宏
- 地域開発にともなう農村の変貌……………山口大学 山本陽三ほか8名
- 経済開発と社会開発——とくに九州諸地域における……………長崎県立短期大学 山本文夫
- Community Development の問題——東パキスタンを例として……………東北大学 佐々木徹郎

本学会最近の傾向として、人口あるいは人口問題に関する社会学的研究は今年度においても少なかつたことが惜しまれ、この方面の専門研究者の養成と人口学者との共同研究あるいは討議が望まれる。しかし「現代階級理論と<中間層>問題」（神戸女学院大学 小関三平）、あるいは「職業の社会的評価」（統計数理研究所 西平重喜）などの報告は、最近における人口の社会的構造の変化と関連が深く、この方面の研究水準や問題の所在を示すものとして興味をひいた。また、マックス・ウエーバーの意義についてのシンポジウムは、各報告ともウエーバーの紹介に終わった感があって、十分な討論と問題点の追求にまで発展しなかつたことは惜しまれた。

（上田正夫記）

第 6 回 日 本 老 年 社 会 科 学 会 総 会

第6回日本老年社会学会総会は、昭和39年11月1日、2日の両日、本大会会長として熊本女子大学学長北村直躬博士の大会運営の下に熊本市九電ホールにおいて開催され、本研究所からは、上田正夫（人口移動部長）、黒田俊夫（人口移動部移動科長）、河野稠果および内野澄子（移動科員）の各技官が出席した。

一般研究発表として18題の報告があったほか、シンポジウムとして、「老人と精神衛生」3報告、「農村と老人」4報告があり、討議が行なわれた。また、次の3題の特別講演があった。